

卒業生による本学の教育に対する調査結果の概要

本学は2019年度で大学開設8年目となり、これまでに4学年の卒業生約320人を輩出してきた。そこでこれらの卒業生に対して、現在までの教育の成果や卒業後の状況、大学院入学等のキャリアプラン、大学への今後の期待・意見について聞くため、2020年2月に卒業生全員に対する調査票（メール・QRコード）を発信した。その結果46名（14.4%）からの回答があり、その内訳は、一期生、二期生、四期生が各12名、三期生9名、不完全回答1名であり、その全てが鴨川市在住者であった。

本学が、卒業時の到達目標として挙げている9項目（①教養教育で培う普遍的基礎能力、②リーダーシップ能力、③根拠に基づいた看護実践能力、④テクノロジー活用能力、⑤医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、⑥ヘルスプロモーションと予防の実践能力、⑦国際的視野の育成と地域貢献能力、⑧生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、⑨あらゆる対象に向けた包括的看護実践能力）について、各能力が身についたかどうか「全くそう思わない」～「とてもそう思う」の5段階で回答を求めた。その結果、「テクノロジーを効果的に活用する能力が身についた」については、「あまりそう思わない」と「どちらとも言えない」の回答が37名（80%）を占め、「国際的視野の育成と地域貢献能力が身についた」は、「どちらともいえない」と「そう思う」が30名（65%）と他の項目に比較して低い傾向にあった。その他の7項目については、「どちらともいえない」と「そう思う」の回答が36名～38名（約80%）であった。達成度が低いと思われる項目を含め、今後の教育内容・方法の検討が求められている。

卒業後、在学中の学修で「もっと学んでおきたかったと思う内容」の回答には、解剖生理学や病態生理学、基礎看護技術が多く挙げられた。また「在学中の役に立った学び」では、「学修力や自分で学ぶ力」などが挙げられた。

大学の施設設備については、教室等の利用時間や自由に使える場所の拡大等が希望として挙げられていた。「この大学に来てよかったこと」では、教員の対応の良さ、大学と連携している総合病院があること、そこで卒業後も働けること、友人との出会い等が多く挙げられた。

キャリアプランの大学院等の入学について、関心のある人が16名（35%）おり、また将来、高度実践看護師や認定看護師の資格を取りたいと思っている人が全体の約半数いた。大学院に進学することへの問題について、「何が困難や課題になっているか」を聞いたところ、25名（58%）が経済的問題を挙げていた。大学の使命である地域の保健医療に貢献する人材育成には、今後、奨学金等の経済的支援について検討することが肝要と思われる。

大学に対する期待では、実践能力の高い教育に関する多様な意見や実習生を受ける卒業生の立場から、学生の学習態度やコミュニケーション能力の強化についての意見が記載されていた。その他、大学と現場の連携強化による教育の向上を求める声がいくつかあった。

以上を総じて考えると、テクノロジー教育と国際性・地域貢献以外については、一応の到達目標は達成されており、教員の学生へのかかわり方についてはその評価が浸透している。今後は、今回の結果に基づく教育内容・方法の検討に加え、大学院教育の充実と強化、及び臨地現場における大学との連携強化の教育に、一層の努力が求められる。さらに今後は、回答率の向上と正確な教育成果を確認してゆくため、IR部門による定期的な調査実施に向け、同総会等との連携やICT活用による、効果的な回答の回収等、調査システムを強化してゆくことが必要といえる。